

高野豆腐（こうやどうふ）

校長 山川 毅

中学生から高校生の時分の私は、文字通り成長期で自他共に認める「食いしん坊」でした。カレーライスなら3杯は当たり前、牛丼なら大盛りの後、並盛りのお替り、ハンバーガーなら3個ペロリ。もちろん＋フライドポテト付き……。残念ながら、その時分に摂取した栄養分はどこへ行ってしまったのやら？脳みそにも身長にも行き渡らなかったことが残念です。当時の好物は、とにかく肉！肉！肉！朝からでもとんかつを食べたかった記憶があります。肉以外はおかずと認められなかった私でした。

比較的好き嫌いなく育った私ですが、数少ない天敵が「高野豆腐」。[豆腐](#)を凍結、低温熟成させた後に乾燥させた[保存食品](#)。乾燥状態では締まった[スポンジ](#)状で、これを水で戻し、[だし汁](#)で煮込むなどして味を付ける代表的な日本料理です。「こんなのおかずにならない！」と私が言えば、当然「文句言うなら食べなくていい！」と母が返してくる。我が家の親子喧嘩の元は、たいがいこのパターンでした。現在では、肉より魚や煮物の方が有難い私ですが、肉食動物であった10代の私は、「高野豆腐」がどうしても許せず、食卓対面で明治生まれの祖母が目を細めて美味しそうに食べている姿が不思議でなりません。当時の私にとって、高野豆腐は“スポンジ”以外の何ものでもなかったのです。そうです……“スポンジ”です。今回の話は、この“スポンジ”がキーワードです。

本題に入ります。以前サッカー部の指導に熱を入れている時分、あるスポーツ栄養学の専門家の方から、「いいサッカー選手を育てるには、質の高いトレーニング、栄養、休養の3つをバランス良く与えることが大切。ただし、栄養に関しては、ただ与えれば良いというものではなく、選手が美味しいと感じなければ栄養にならず、血や肉になりません。だからこそ、選手が栄養を吸収しやすいように調理することが大切なのです」と伺いました。

この話は、中学生の学習にも当てはまると思います。どうすれば「楽しい！」と感じさせ、どうすれば「やるか！」と思わせられるか、これは簡単なことではありません。我々教員もこの答えを求めて、日々教材研究（授業準備）に苦心しております。周囲の大人が「勉強しろ！」と100回言って、それで勉強するようになれば苦労はありません。中学生年代、特に中学2年生あたりからは特に顕著となります。2人の中学生の子育てを経験した私自身も、明解な答えを持ち合わせているわけではありませんが、1つ言わせてもらえれば、大人がやるべきことは、環境づくりだと思います。基本的な勉強ができる環境は常に整えておく。そして勉強しない姿にいらいらしても、なるべく我慢して静観する（私の経験上これが一番難しかったです……）。そして、いつか子供が何かのきっかけでやる気を起こした時、そのタイミングを逃さず良い刺激を与える。言い換えれば、子供が枯渇したスポンジのように吸収したい状態となった時がチャンスです。そんなイメージで、子供たちに自分に必要なものを美味しく吸収させることができたらいいですね。先回りしてあれやこれやと無理に押し付けるのではなく、でも子供からは目を離さずに、ここぞというタイミングで必要なものを与える、こんなスタンスが大人として大切なのではないのでしょうか。

以上、我が子が中学生だった時の接し方を猛省している私が書かせていただきました。

鍵水中学校グループ育てたい児童・生徒像
「好きになれる～自分・仲間・学校・地域・挑戦～」



ハートフルウィーク

いじめの未然防止・早期支援の充実



↑二者面談直後の様子

生徒と先生が話しやすい雰囲気を作ることや、生徒が相談できる大人を増やすこと等を目的に、夏休み明けに、全校生徒が担任以外の先生との二者面談を行いました。学校での様子や悩みだけでなく、趣味の話や将来の目標等、生徒が話したいことを話しました。最初は緊張していた生徒もいましたが、面談が終わるころはとてもリラックスしておしゃべりができました。とてもハートフルな時間になりました。

リトルティーチャー

学力向上・小中一体化の取組



左上:事前指導。荒木先生(鍵水小学校)に指導していただきました。 その他:当日の様子

令和8年度1回目のリトルティーチャーを行いました。リトルティーチャーとは、鍵中生の有志が、鍵水小学校児童に「リトルティーチャー」として「できた・分かった」を体験してもらう取組です。今回は約20名のリトルティーチャーが小学校3～6年生に算数を教えました。鍵水小学校の先生からは「リトルティーチャーたちは、答えを教えるのではなくて、ヒントや解き方を気付かせるような声掛けがとても良かった。」とお褒めの言葉をいただきました。また参加した小学生は「問題ができて楽しかった。また中学生に教えてもらいたい。」等感想を話してくれました。リトルティーチャーも「教えて分かってもらえたことが嬉しかった。将来の目標につながるかもしれない。」と話す等、達成感を味わっているようでした。

たくさんの時間をかけて準備していただいた鍵水小学校の高田校長先生はじめ、先生方、ありがとうございました。次回は1月に開催します。

鍵水中学校は「想像力」と「思いやり」



鏈水中学校グループ育てたい児童・生徒像 「好きになれる～自分・仲間・学校・地域・挑戦～」

15 分 de English～スーパーベーシック～

学力向上の取組・鏈水中学校地域協働本部



鏈水中学校地域協働本部主催の英語の学び直し講座「15 分 de English～スーパーベーシック～」に約 30 名の生徒が参加しました。

参加した生徒は「分かりやすく説明してくれた。細かく解説してくれてありがたかった。」「be 動詞、一般動詞の使い方をやり直して学ぶことができて良かったです。」等、感想を書いていました。大好評だったので、次の開催も決定しました。次回は 10 月 21 日（水）です。

青少対育成指導員・生活指導部 協働パトロール

安全指導の充実・地域との協働



9 月 17 日、29 日、鏈水中学校生活指導部の教員と青少対の育成指導員と協働パトロールを行いました。このところ不審者情報があったり、地域の方から登下校時の鏈中生の様子気になるとの報告があったりしたので、育成指導員（育成指導員は独自に月に 2 回程度、パトロールを実施しています）とのパトロールを計画しました。今回は東谷公園から、おかえり喫茶を視察、その後鏈水中学校へ向かいました。29 日は谷戸入口交差点から鏈水中学校までの危険箇所を確認しました。

下校時のパトロールは適宜、実施する予定です。

鏈水中ブルーベリー～生徒会予算の執行～

生徒会活動の活性化・食育・PTA との協働



9 月 15 日の給食は、鏈水中学校でとれたブルーベリーと恩方のブルーベリーを合わせて作ったブルーベリージャムでした。鏈水中学校でとれたブルーベリーは、令和 6 年度後期～令和 7 年度前期の生徒会本部役員が、「鏈水中学校をより良くするための予算（5 万円）」を使って「中庭の枯れた花壇をブルーベリー畑にして、鏈水中学校の象徴にしたい」というアイデアから、栽培が始まりました。（※毎年度 5 万円を PTA から「鏈水中学校をより良くするための予算」としていただいています。今年度は「音楽フェス」を実施する予定です。）ブルーベリーの苗を植え付けてから 1 年、実ができて給食として全校生徒が食べることができました。「鏈水中学校をより良くするための予算（5 万円）」をきっかけの 1 つにして、生徒会活動が活性化することを期待しています。

鏈水中学校は「対話 de 指導」